

地震、雷、火事、親父おやじ

中 林 幸 夫

(会員・香川県綾歌郡国分寺町)

世の中で恐ろしいものの順番として、地震・雷・火事・親父という格言があるが、戦後女性に婦人参政権が与えられ、民主主義の世の中になって知らぬまに、親父の権威は失墜してしまった。

地震の方は、平成七年の阪神大震災で身近に恐ろしさを見せつけている。

国民は地震に過敏になり、第二の関東大地震を想定したり、防災訓練でも地震対策が多くなった。

佐伯地方は地震がないと思っている人も多いが、歴史書(佐伯志等)を調べてみると、次表のように約百年に一回くらい大きな地震に遭遇している。

防ぎようがないから、油断は禁物である。(表一参照)

(表1)

発生年	西暦	月日	災害の種別	内 容
慶長元年	1596	7.12	大地震	大津波により瓜生島・沖ノ浜が海没
元禄9年	1696	7.19	高 津	6900名損耗
宝永4年	1707	10.4	大 津	潰れた家486軒・津波の高1丈・余
			大 津	震5~6日続く
明和6年	1769	7.28	大 津	潰れた家115軒・津波を伴う

話は変わるが、以前城山に登ったとき本丸付近で軒丸瓦を拾って帰った。瓦は直径一四・五センチで、紋様は一六ヶの丸に囲まれた中に左三つ巴紋であった。

七世紀頃の古い瓦は連華紋が多かったが、その後は殆んど巴紋となり、軒丸瓦の別称を巴瓦と呼ぶほどになった。巴紋は一つ巴・二つ巴・三つ巴とあり、巴(柄)は弓を射るときに使う道具を圖案化したものと言われているが、なぜか、瓦や大鼓・家紋等に使われた。

私は、風(台風の形)・水(穴に流れ込む渦の形)・雷雲の感じではないかと思っている。そこで巴を瓦の紋にしたのは、大風雨・雷を避けるために使ったのではないのだろうか。

鶴屋城の瓦を手にしなから、鶴

(表2)

発生年	西暦	月日	内 容
慶長6年	1601	4. -	毛利高政佐伯に転封
〃 7年	1602	- -	鶴谷城築城着手
〃 9年	1604	- -	石垣が終わり城・櫓等の建築にかかる
〃 11年	1606	- -	天守外二の丸・西の丸・北の丸が完成
元和3年	1617	6. 25	二の丸より出火・古文書汁器等焼失
寛永14年	1637	- -	山麓に三の丸御殿を建てて藩政をとる
宝永6年	1709	- -	六代高慶鶴谷城の修築にかかる
享保9年	1724	7. -	大手門の棟上げ
〃 11年	1726	7. -	櫓及び北の丸が完成
〃 12年	1727	- -	搦手門の棟上げ
〃 13年	1728	- -	全ての工事が完了・但し天守は復旧せず
延享2年	1745	11. -	七代高丘鶴谷城の修築にかかる
寛延2年	1749	7. -	修築工事の落成を祝う式典を行う
文化元年	1804	6. -	鶴谷城に落雷
安政4年	1857	- -	鶴谷城の修築を行う

ろう、城の主体の天守閣を造らなかつた理由は、経済的なものか。

現在の三ノ丸御殿だけで藩政がおこなわれていたとすれば、少しさみしい気がする。

屋城築城の沿革等を調べてみると次のようであった。(表二参照)

再建時に天守閣を造らなかつたことははっきりしているが、二ノ丸はどうであったのだ

鶴屋城は山頂に築かれたため、機械のない時代、領内から多数の百姓たちが夫役として集められ、大量の石材・木材等を山頂まで運び上げさせられたことだろう、その労苦は知るよしもない。

現代でも団地造成から建設へと数年を要するのが普通であるのに、山頂の造成から城の建設までを、四年の短期間に終わらせたことは驚くべきことであるが、領民は夫役に疲労困憊こんぱいであつたと思われる。そのような時代の中に於いて、

一六〇二(慶長七)年 善教寺を古市より城下に移す

同 年

古市村、福圓寺建つ

一六〇三(慶長八)年 上野村、西運寺建つ

一六〇五(慶長十)年 城下に養賢寺建つ

一六一二(慶長十七)年 因尾村、宿善寺建つ

一六一三(慶長十八)年 城下に潮谷寺建つ

一六一九(元和五)年 津久見浦、長泉寺建つ

一六二四(寛永元)年 浦代浦、大願寺建つ

と多くの寺が建てられたのも不思議な気がする。

次に雷であるが、今は毎日の天気予報に雷注意報がし

ばしば発表されるが、人々の関心は少ない。最近では随所に避雷針がもうけられて、人的被害が少ないからであるろう。

しかし、昔は地震に次ぐ恐ろしいものとされていた。

それは、所かまわず落雷して火事を起こし、人の命を直撃して奪うからである。

古代人は、かみなりは神鳴り、神の怒り、雷(いかずち)は石斧として恐れ、信仰の対象としていたようである。そのため、寺社は雷除けの守り札を発行し、金持ちは落雷から身を守るため二重天井の部屋を作っていた。庶民は蚊帳の中に入って、クワバラクワバラと唱えたと聞く。(桑原は菅原道真が昔住んでいたところで、菅公が無実の罪をうらんで天に祈り、やがて霊が雷となって京都に落ちて、人々をふるえあがらせたとのこと)

そこで、落雷・大火災・大風雨(台風)等の記録を見ると、今以上に大きな災害が発生して、人々は生活に困っていたようである。

国家的救済のなかった時代、被災者は難事をいかにして克服したのだろうか。

歴史書等に残る災害を列記してみる。(表三参照)

過去の地震、台風による水害・火災の大きさ等の状況を知ると、河川の治水対策、消防力の重大性がいかに重要であるかが考えさせられる。

現代の恐ろしいものの順番はというと、地震・台風・水害・旱魃・火災・雷・病氣(ガン)・交通事故・殺人強盗・薬害・社会のいじめ、それに強い女性……とあつて順位のつけ方はむつかしい。

昔の親父・巡査・先生・雷が脱落したことは間違いない。

地震・公害・妻・税金はどうだろう。

より良い生活環境は、みんなの努力で守りたい。

学校の うらは城山 若い声

参考文献

(表一、二、三) 佐伯市史ほか

(表3)

発生年	西暦	月日	内 容
延宝元年	1673	1. 6	白湯八幡社炎上
貞享3年	1686	6.26 ~27	南風烈し・米水津村小浦に箔仏像漂着
元禄7年	1694	8.14	米水津村竹野浦で火災27軒類焼
◇9年	1696	7.19	高汐で6900石損耗
		9. 8	大風吹き溺死者がでる
◇10年	1697	2.18	大雪・積雪4~5尺
◇15年	1702	7.28	暴風雨洪水・流失又は潰れた家の方421軒浦方58軒死者15人
◇16年	1703	8.15	暴風雨洪水・田畑損耗2715石・流失又は潰れた家89軒
宝永元年	1704	8.22 ~23	暴風雨・旅船2艘長田に漂着(32人乗り組み)死者2人
◇2年	1705	12.15	医者小沢自悦方より出火287軒類焼
◇4年	1707	8.18	暴風雨洪水・潰れた家447軒・土手決壊89町
◇5年	1708	5. 6	暴風雨
正徳元年	1711	12. 2	鳩浦百姓平次郎方より出火58軒類焼・一向宗寺1ヶ寺焼失
◇2年	1712	7. 7	暴風雨洪水
		8. 9	暴風雨洪水・田畑の損耗13640石・潰れた家68軒・破船8艘・溺死者23人
享保元年	1716	12.24	津井浦で火災70軒類焼
		12.26	代後浦で火災42軒類焼
◇2年	1717	6.15	船頭町から出火118軒類焼
◇6年	1721	7. 5	暴風雨洪水・潰れた家195軒
◇7年	1722	7.29	暴風雨洪水・城下処々土手決壊・役人1人死亡・市中浸水1丈余
◇14年	1729	8.19	暴風雨洪水・潰れた家624軒・神社2社・破船64艘・溺死者4人
		9.13	洪水・潰れた家36軒
◇16年	1731	8.10 ~11	暴風雨洪水・田畑の損耗1500石
◇17年	1732		夏より秋にかけて穀物実らず
◇19年	1734	7.26 ~27	暴風雨洪水・田畑の損耗1150石
元文元年	1736	9.12	本町浅澤傳右衛門方より出火337軒類焼(内町残らず焼失)
◇2年	1737	9. 4 ~ 5	暴風雨洪水・川土手処々決壊
◇3年	1738	8.16 ~17	暴風雨洪水・田畑の損耗1295石
◇4年	1739	8. 5	暴風雨洪水・田畑の損耗6296石・潰れた家80軒
寛保元年	1741	7.21 ~22	暴風雨洪水・田畑の損耗4853石・潰れた家177軒
◇3年	1743	8.13	暴風雨洪水

寛延元年	1748	9.2 ~17	暴風雨洪水・田畑の損耗2163石
宝暦5年	1755	8.24 ~25	暴風雨洪水・田畑の損耗2637石・破船52艘
〃9年	1759	7.8	暴風雨洪水・田畑の損耗3565石
〃12年	1762	6.25 7.15 8.9	三度び暴風雨洪水・田畑の損耗11,357石・溺死者1名
明和元年	1764	1.10	城下の町家から出火157軒類焼・内土蔵17棟
〃4年	1767	4.一 5.一	天候不順・虫害による作物の損耗10658石
〃5年	1768		夏期の早魃により田畑の損耗3225石
〃6年	1769	7.28 12.29	地震により潰れた家115軒 中島町より出火家士201軒・町家111軒類焼久成寺焼失
〃7年	1770	5.29 12.4	雷風雨・新丁鐘持理平治方より落雷により出火 中村百姓家より出火45軒類焼
〃8年	1771		夏期の早魃により田畑の損耗10132石
天明元年	1781		6月より疫病・夏期の早魃により田畑の損耗7832石(天明の飢饉)
〃2年	1782	7.17 8.20	二度の暴風雨洪水・田畑の損耗10229石 〃
〃3年	1783	7.8	風雨洪水・田畑の損耗8792石 〃
〃4年	1784	7.一	暴風雨洪水・田畑の損耗5672石 〃
〃5年	1785	7.11	風雨洪水・田畑の損耗10855石 〃
〃7年	1787		早魃が続き穀物実らず(飢饉の最盛時)
〃8年	1788		〃 〃 餓死者続出
寛政4年	1792	8.一	風雨洪水
〃6年	1794	2.一	城下の大火
〃8年	1796	8.10	暴風雨洪水・田畑の損耗16300石
〃9年	1797	8.13	風雨洪水
〃10年	1798	1.29	関屋善左衛門方より出火170軒類焼
〃11年	1799		5月以降、早魃が続く
		8.15	暴風雨洪水
享和2年	1802	7.一	風雨洪水・田畑の損耗1717石
文化元年	1804		7、8月の二度暴風雨洪水・田畑の損耗6300石
〃4年	1807	6.2	風雨洪水
〃6年	1809	12.3	内町仲屋半右衛門方より出火161軒類焼
安政元年	1854	11.6	地震
元治元年	1864	2.17	中村百姓千代藏方より出火46軒類焼・善教寺焼失
慶応元年	1865	2.7 8.9	五所明神社炎上 中島町野々下元藏方より出火8軒類焼
明治22年	1889	9.一	船頭町松木屋より出火同町・浜町・新町・横町等類焼
〃26年	1893	10.12 ~14	降雨により番匠川増水1丈7尺・池船橋流失・道路決壊150間